大阪市立大学と大阪公立大学

写真は「杉本キャンパス」の理学部と生活科学部の間にある大学案内。公立大学法人「大阪市立大学」と「大阪公立大学」が並んでいる。大学正門横には、「総合知で超えていく大学」と書かれた大きな案内も。学術情報総合センター玄関には「大阪公立大学 杉本図書館」という掲示が新たに加えられた。

毎日8日朝刊は「大阪公立大 始動へ」と伝えている。すこし紹介しよう。大阪市立大と大阪府立大を統合して誕生した大阪公立大は11日、入学式を開き、第1期生を迎える。学生数は1万6000人で、東京都立大を抜いて公立大で全国トップに躍り出た。

市大と府大の統合は「二重行政解消」を掲げる大阪維新の会の政策が呼び水となった。2019年には新大学の運営法人が設立され、22年4月1日に新大学が発足したが、21 年度入学生が卒業するまでは、市大、府大も併存する形となる。府大のある堺市も含めて現有キャンパスを維持し、25 年には大阪市内に森之宮キャンパスを新設する。

「世界大学ランキングの 200 位以内を目指す」。桜木弘之副学長はこう強調する。ランキングは、英教育誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション」による教育力や国際性を基にした格付け。国内大学で200位以内に名を連ねるのは東京大、京都大だけだ。市大、府大とも順位は現状1201位以下。調麻佐志・東京工業大教授（科学技術社会論）は「統合しても両大学の平均が維持されるだけで、いきなり相乗効果は望めない。現状から200位以内入りは、目標として不適切ではないか」と指摘する。

公立大のなかで最大となり、国公立大として大阪大、東京大に次いで全国3位の規模になる。大学は「大きいことがいいことだ」と思わないが、大阪公立大は規模に見合うだけの大学になれるのか。あらためて、何のための大学統合、伝統と個性ある大阪市立大と大阪府立大が廃止されるのかを問いたい。そもそも両大学の統合は、大学内の内発的な議論から始まったのではない。大阪維新の会が「二重行政解消」の象徴として公約に掲げたことから議論が始まった。まさに大学・教育のあり方よりも、維新という政党の政治的な思惑が優先されたのだ。維新が掲げた大阪市廃止は大阪市民により阻止されたが、大阪市立高校は大阪府に無償で移管され、大阪市立大は廃止されることになる。

大阪公立大は開学したが、出足から異例の事態になっている。医学部付属病院長の人事をめぐる「内紛」により、病院長が決まらず職務代理者が任命された。注視したい。

（2022年4月11日）